



6月28日(金)、初声小学校にて、みうら学・海洋教育研修会を開催しました。講師は、お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンターの里浩彰先生。演題は、「海洋教育の意義とその実践」でした。

前半は、日本が海洋国家であること、日本は海運なしでは成り立たないことなどに触れ、そこで海洋教育を行う意義を話されました。海洋基本法や、平成28年の海の日における内閣総理大臣のメッセージからも、海洋教育の必要性に触れました。

後半は、海から離れた地域での海洋教育の現状について、先生が関わっている北区や渋谷区の小学校での実践を、動画等を交えて話していただきました。印象に残ったのは、「コンテンツによるのではなく、コンピテンシー（単なる知識や技能だけでなく、態度などを含む様々な資質・能力を活用して、複雑な課題に対応することができる実践的な力）による横断を」という言葉でした。

講演終了後、各学校の海洋教育の状況についての情報交換をしました。総合だけではなく、各教科（家庭科など）とのコラボを考えている学校や、稲作と塩害について調べたり、修学旅行の東北での民泊で、三浦市の暮らしを紹介する取組をしたりした学校もありました。ビーチコーミングや海藻おしば教室を通して、環境問題について考える取組も紹介されました。



参加者のアンケートより

- ・実践集は、大変参考になった/様々な教科で、「海洋」につながる実践を工夫したい/内陸でも可能・・・刺激になった
- ・バフウニの受精の瞬間や、ヒトデの動画などに興味を持った
- ・各教科と関連させるのがむずかしく、悩んでいたため、実践報告を参考にしたいと思う



- ・改めて、私たちの暮らしと海が密接に関わっていることを考えさせられた
- ・海から遠い地域での海洋教育という考え方があることを知った
- ・海から離れているからこそ、興味を持たせ、意識付けできると思った
- ・ウニの受精を子どもたちにも見せてやりたいと思った
- ・海の地域で育ったものとして、できることはしていきたいと思った
- ・海洋教育、何から始めよう、何をしよう、という気持ちになりがちで、難しいイメージがあったが、他教科の単元の中に関連付けとして入れていく方法は大変勉強になった/海のことも学べると同時に、その単元の学習も深められると感じた

海洋教育写真コンテストのクラウドファンディングは、無事に目標額を達成することができました。ご協力いただいたみなさんありがとうございました。

(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで